

2016年度 発達保障学校

~~~~~  
***SYLLABUS***  
~~~~~

(講義計画)

人間発達研究所

| | | |
|---|---------------------------|-----------------------------|
| <p>コース名 「入門の入門」コース</p> | <p>2016年度回数 全3日5回</p> | <p>担当者 坂本彩・高田智行・武居誠</p> |
| <p>授業の内容</p> <p>このコースは、社会人3年目程度までの方を対象とするコースです。 「悩みを出し合い」→「座学で学び」→「学びを共有して明日からの実践につなげる」というプログラム構成にしています。目の前で起こっている問題や悩みを発達的に読み解くとどうなるのか。そんな視点がもてることをめざします。 討議は、乳幼児を対象とする職員グループと成人期を対象とする職員グループにわかれて実施します。3時間×5コマの半期コースですが、3日間で実施します。 発達を学ぶことで、目の前の困難ケース・課題などの「答えがでる」ものではない。いろいろな見え方、とらえ方、考え方を学ぶこと。その過程こそが大切です。</p> | | |
| <p>開講計画</p> <p>6月26日（日） 9:30～16:30 9月 4日（日） 10:00～13:00 （終了後、希望者は一緒にランチでおしゃべりなど） 12月11日（日） 9:30～16:30</p> <p><各回の企画内容></p> <p>第1回 6月26日9:30～16:30 オリエンテーション グループワーク① 自己紹介，問題意識．困っていることの確認 講義① 「発達を学んで？」 講義② 「発達の理解を相談実践に活かすって？」 グループワーク②「講義をみんなで理解しよう」「わからないことは共有しよう」 「私は、明日からこんなことしてみよう」</p> <p>第2回 9月4日 10:00～13:00 グループワーク③ 第1回で「これをやってみよう！」と考えたことをやってみてどうだったのか報告，失敗もOK．うまくいかなかったことやわからないことの「わかちあい」 ミニ講義 第1回の皆さんの声をもとに，内容を考えてミニ講義をします。 希望者個別相談，ランチタイム 終了後，希望者の方は，一緒にランチをしながら，おしゃべりをしましょう．個別の相談もOK.</p> <p>第3回 12月11日 9:30～16:30 第1回～2回の皆さんの声，希望を聞いて，思いにそくした内容のグループワークと講義をします。「まとめ」ができるような内容を考えています。</p> | | |

| | | |
|--|-----------------------------|----------------------|
| <p>コース名 「個人の発達の系」概論コース</p> | <p>2016年度回数 全10日12回</p> | <p>担当者 中村 隆一</p> |
| <p>授業の内容</p> <p>人間の発達を支える体系としての発達保障論は、「ひとりの発達が万人の発達になるような」社会の実現とともに、ひとりひとりの発達を具体的に支える方法や技術を必要とします。</p> <p>そうした方法や技術の検討・再構成は、もっぱら支援者固有の専門性ですが、その場合に発達をとらえて内発的な根拠が把握されていることは、重要な意味があります。「啐啄（そったく）」ということばがあります。雛（ひな）が卵からかえる時、卵の中にいる雛がからを中からつく（その音が啐）ことと、親鳥が殻を食い破る（啄）とが一致して、雛鳥が殻から出てくることができるといえる、という意味です。卵の殻の中の様子をつかんで支援する、これが発達の根拠の重要な中身になります（【発達のすじ道を知る】）。</p> <p>同時に、支援者の日々の取り組みの中で、支援の方法や技術が深まるためには、その材料となるさまざまな記録がとても重要になります。その記録をつけるとは、行動や姿を「ことば」にすることですが、その「ことば」がゆたかになっていることが必要です。実際には、変化しようとしている姿であるのに、逆戻りの姿であったり静止した姿としか記録できないとすると、それは支援の方法や技術を検討する材料にはなりにくいのです（【発達の理論的理解を得る】）。</p> <p>さらに、支援は、人間同士のかかわり・やりとりの中で進んでいきます。ところが、私たちは、話し言葉でのやりとりになれきっているために、話し言葉が無い状態の人たちとのやりとりに戸惑いを感じることにあります（【発達の時期ごとのやりとりのツボを知る】）。</p> <p>以上3つの課題に迫ろうというのが、「個人の発達の系」概論コースです。</p> <p>具体的には、人生最初の10年までの発達について、ここでは学びます。</p> <p>具体的には、「発達とはなにか」「発達の的に見ると言うことはどういうことか」「そのためにどのような努力と試みがなされてきたのか」を、『発達の旅 人生最初の10年 旅支度編』の内容をもとに学びます。</p> <p>次に受精を出発点に胎生期、乳児期前半、乳児期後半、幼児期と講義をすすめていきます。</p> <p>教材は、当日に配布する資料、スライド、VTR などです。スライドのHandout、講義内容の録画などは、人間発達研究所のホームページの発達保障学校のコーナーにリンクがあります。</p> | | |
| <p>インフォメーション</p> <p>《質問について》</p> <p>講義形式のコースですが、質問大歓迎です。メールでのご質問は下記専用メールアドレスにどうぞ（携帯電話のメールはうまく送受信ができない場合がありますのでご注意ください）。</p> <p>質問用のメールアドレス r-nakamura@j-ihd.com</p> <p>《資料など》</p> <p>講義では用意したスライドをもとに進めますがHandoutは印刷していません。このHandoutやレジュメ、講義の映像、音声はインターネットのサイトにアップロードしますのでご利用ください。下記アドレスから直接閲覧できます（要パスワード）</p> <p>http://firestorage.jp/groups/8be85457cd68c954b576b1362183040763a3ebc5</p> <p>参考図書：中村隆一『発達の旅 人生最初の10年 旅支度編』（クリエイツかもがわ 2013-02） 希望者は割引価格（定価1700円が1200円）で購入できます。</p> | | |

| | | |
|--|--------------------------|----------------------|
| <p>コース名 発達保障実践論コース</p> | <p>2016年度回数 全10回</p> | <p>担当者 田村 和宏</p> |
| <p>授業の内容</p> <p>教育や保育，高齢者や障害者を支える職場など，私たちの職場は，より困難さを増してきています。その背景には，今日の社会が「生活しにくい」ものになっているという事情もあるでしょう。こうしたときに，私たちがよりよい実践をすすめていく実践者であるためには，どのような力量が求められるのでしょうか。</p> <p>今年度は，①実践記録を書く，②職員が育つということ，育てるということ，③集団について考える，④実践と運動について，⑤事例検討，という柱で授業をすすめます。</p> <p>すすめ方については，オムニバス形式ですすめます。具体的には，これまでの実践論コースを5回+実践記録の書き方コース（竹沢先生）という形になります。</p> <p>講義形式というものではなく，小集団でのゼミナール形式で受講されるみなさんといっしょに議論をしながら深めていく時間としていきたいと思っています。前半の時間で発達保障実践をすすめていくための視点についての講義時間もとりますが，むしろ大事にしたいのは後半の時間になります。テーマを設定して，それをそれぞれの実践現場の状況を見回し，分析しながら話し合い，そして自分の実践現場理解を深めることと，次の展望を持つこと，に重点を置きたいと思っています。</p> <p>今回が新たなすすめ方でもあり，そういう意味ではむしろ受講者の実践現場の状況などによって，内容を変更することもあります。みなさんといっしょに作っていくコースになります。聞いているだけより，意見を出し合って元気をつくる，そんな時間としていきたいと思っています。</p> | | |
| <p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>第1回 5月28日（土） a m 竹沢先生－1 第2回 5月28日（土） p m 竹沢先生－2 第3回 6月18日（土） p m 田村－1 〈いま実践現場で何が起きているか〉 第4回 7月23日（土） p m 田村－2 〈職員が育つということについて考える〉 第5回 8月20日（土） p m 田村－3 〈集団（子ども集の集団，利用者の集団，保護者の集団，職員の集団など）について考える〉 第6回 9月17日（土） a m 竹沢先生－3 第7回 9月17日（土） p m 竹沢先生－4 第8回10月15日（土） p m 田村－4 〈実践と運動について考える〉〈生活を支えるということ〉 第9回11月19日（土） p m 田村－5 〈事例検討〉〈発達保障について語り合う〉 第10回12月17日（土） p m 竹沢先生－5 （予備日2月18日）</p> | | |

| | | |
|--------------------|-------------------|-------------|
| <集中講義> 実践記録の書き方 | 2016年度回数 全3日5回 | 担当者 竹沢 清 |
|--------------------|-------------------|-------------|

「書くこと」で、子ども理解を深める——子どもが見えてくる記録の書き方——

ここでの願い

書くことはめんどろ、でも、書けばいいことがある。

伝わる文章・思いを表す文章にはコツがある。

—実例で検討し、そして「『書くこと』で実践主体になっていく」、そんなことが実感できる機会になっていけたら、と考えています。

意識化してみる

この冬、センリョウとマンリョウとの違いを知りました（今頃か、と言われそうですね）。冬に、赤い実をつける植物とは思いつつも、しっかりと意識していなかったのです。その違いを知ってからは、（あ、隣の家の庭にも、マンリョウあったんだ）と素通りできなくなりました。

実践記録の書き方も、これと似ているかなと思います。いったん、記録の書き方を知れば、書くことを通して子どもの見え方が違ってくる。—（やったことを書けばいい）、と何気なく思っているのが一般的ではないでしょうか。けれども、「人に伝わる文」「自分の思いを表すことのできる文」には、それ相応の理由があるのです。キーワードは「事実」。

事実で伝える

ともすると、「子どもが主体的になった」などと、言葉だけで言ってしまうがちです。そのとき、「事実で語る（語ろうとする）」ことで、子どもを、観念的に・束（たば）でとらえる見方から、私たちを逃れさせてくれます。大学で、「卒業生に贈る言葉」を依頼されました（福祉の現場に巣立つ学生に200字で、と）。言葉だけでなく、（事実をもとに思いを伝えたい）と、こんな文章を書きました。

人間を“深く”学ぶ 竹沢清

発達障害の翔子さん（小1）は、話は巧み、だが、思い通りにならないと友だちに手を出し、欲しいものは待って帰る…。

半年後、落ち着いてきた。

6年の佳代さんは、知的な障害もあり、言葉が不十分な子だった。

当初、翔さんは、佳代さんに普通に話しかけていた。通じない。そのうち翔さんが、「佳代ちゃんは、〇〇がしたいのかな」と推測するようになってきた。

他者の気持ちを汲み取ることの苦手な翔さんが、言葉の不十分な佳代さんと出会ったからこそ発達する。

—この、人間の奥深さ、そこに感じ入ることから私たちの仕事を出発させたいものです。お元気で。

実践の記録、そこに至るまでにはいくつかのステップがあります。

それを私は「実践記録4つの課題」、とっています。

実践の方向性

記録の源は、何よりも実践です。とりわけ、子ども理解が大事。熱があるとき、インフルエンザとみるか、風邪と見るか、それによって処方箋が違ってきます。「問題行動」の中に、屈折した形でその子のねがいを読み解く—それが勘所。

事実の切り取り

ADHDの直行は、1番になれないと名札を引きちぎって教室を飛び出す。あるとき、製作で飛行機の尾翼がうまくつかずに苦戦をしていた。しばらくして、ポツリと言う。「まっ、いいか。（折り合う力がつき始めた！）—この事実を「子ども発見」として、すかさず、心にとどめ・メモするのです。

材料があれば料理ができるように、事実があれば記録が書ける。その子へのねがいが高ければ高いほど、キラッと光る小さな変化を見つけることができます。

（いいな）と思う子どもの姿、やはり、書きとどめ、誰かに伝えたいものです。

事実の意味づけ

直行の、何気ないつぶやき。小さな事実であっても、その子のこれまでの歩みに照らしてみれば、かけがえのない値打ち。意味づけによって、事実の見え方が違ってきます。「小さな事実の中に大きな人間的な価値がある」。

そして記述

何よりも、事実を（で）書く。「事実があればイメージがわく、イメージがわけば伝わる」

基本は「4つの課題」。けれども、ここでは、難しい理屈ではなく、わかる文・伝わりにくい文の、「具体例を用いて」・「実習的に」比較検討し、実感的に分かり合いたい。記録を「意識化」する、1つの機会になればと思います

「書くことは認識を深めること」。子どもの内面理解につながります。

| | | |
|--|--------------------------------|----------------------|
| <p>コース名 発達基礎理論研究コース</p> | <p>2016 年度 全10回+1回(追加)</p> | <p>担当者 荒木 穂積</p> |
| <p>講義内容・テーマ</p> <p>本コースでは、田中昌人らによって提起されてきた「可逆操作の高次化における『階層－段階』理論」（『階層－段階』理論と略称する）の学習をすすめます。今年度は、幼児期の階層（その3）「幼児期Ⅲ：5・6歳児」の学習をすすめます（昨年度は、幼児期の階層（その2）「幼児期Ⅱ：3・4歳児」、一昨年度は幼児期の階層（その1）「幼児期Ⅰ：1歳半から3歳未満まで」を取り上げて学習しました）。必要に応じて乳児期前半の階層から学童期の階層までの各階層も取り上げます。</p> <p>本コースでは、現代の人間の乳幼児期の発達研究も取り上げて学習をすすめていきます。今年度は、森口佑介『おさなごころを科学する—進化する幼児観—』（新曜社、2014）を前半で学習します。後半は田中昌人らの「可逆操作の高次化における『階層－段階』理論（『階層－段階』理論と略称）に焦点をあてて学習をすすめてゆきます</p> <p>テキストは『人間発達の科学』（青木書店）、『人間発達の理論』（青木書店）、『子どもの発達と診断3：幼児期Ⅰ』（第3巻：大月書店）を用います。</p> <p>個人の発達の系概論コースを修了した人、若手大学院生、発達相談、保育・教育、福祉、医療などの分野で実践している人、『階層－段階』理論の実践と応用に興味をもっている人、『階層－段階』理論を再学習したい人等の参加を期待しています。</p> | | |
| <p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>第1-2回目：オリエンテーション</p> <p>(1)可逆操作の高次化における『階層－段階』理論がどのような構築されてきたか（その1） （テキスト1）</p> <p>(2) 可逆操作の高次化における『階層－段階』理論がどのような構築されてきたか（その2） （テキスト1）</p> <p>第3-5回目：『おさなごころを科学する—進化する幼児観—』を学ぶ</p> <p>(1)『おさなごころを科学する—進化する幼児観—』の発達研究（その1）（テキスト2）</p> <p>(2)『おさなごころを科学する—進化する幼児観—』の発達研究（その2）（テキスト2）</p> <p>(3)『おさなごころを科学する—進化する幼児観—』の発達研究（その3）（テキスト2）</p> <p>第6-7回目：『階層－段階』理論を学ぶ</p> <p>(1) 発達における階層概念の導入について（テキスト3）</p> <p>(2) 発達における可逆操作について（テキスト3）</p> <p>(3) 発達における対称性原理について（テキスト4）</p> <p>第8-10回目：幼児期（次元可逆操作期）の階層：3, 4歳児</p> <p>(1) 5, 6歳児の発達の特徴（テキスト4）</p> <p>(2) 5, 6歳児の発達診断（テキスト4）</p> <p>(3) 5, 6歳児の育児支援と健診（テキスト4）</p> <p>第11回目：幼児期（次元可逆操作期）の階層の振り返り：1歳～6歳の発達の特徴 （テキスト(5)および参考書(5)・(6)）：10回目と同じ日に予備として実施する予定です。</p> | | |
| <p>テキスト</p> <p>(1) 京都大学教育学部第二期生有志『あの頃の若き旅立ち—教育・研究・生活—』（クリエイツかもがわ、2006）</p> <p>(2) 森口佑介『おさなごころを科学する—進化する幼児観—』（新曜社、2014）</p> | | |

- (3) 田中昌人『人間発達の科学』（青木書店）
- (4) 田中昌人『人間発達の理論』（青木書店）
- (5) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』幼児期Ⅲ（5巻），大月書店

参考書・ビデオなど

- (1) 田中昌人・田中杉恵『発達診断の実際』（1～8巻）DVD版，大月書店
- (2) 田中昌人・田中杉恵『あそびの中にみる子どもたち』（1～6巻）DVD版，大月書店
- (3) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』乳児期前半（1巻），大月書店
- (4) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』乳児期後半（2巻），大月書店
- (5) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』幼児期Ⅰ（3巻），大月書店
- (6) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』幼児期Ⅱ（4巻），大月書店
- (7) 田中昌人『発達研究の志』あいゆびい（発行），萌文社（発売），1996.
- (8) 田中昌人先生を偲ぶ教え子のつどい実行委員会『土割の刻—田中昌人の研究を引き継ぐ—』（クリエイツかもがわ，2007）

その他

本コースは，レジュメによる発表など参加型学習形式でおこないます。DVDや映画など視聴覚教材を用いた学習も取り入れていきます。ゼミナールの中でテキストの他に関連文献や資料を適宜紹介・配布する予定です。

| | | |
|--|--------------------------|----------------------|
| <p>コース名 発達診断方法論コース</p> | <p>2016 年度回数 全6回</p> | <p>担当者 中村 隆一</p> |
| <p>授業の概要</p> <p>方法論コースでは、実際に発達診断に従事しようとする（あるいは、現にしている）人々を対象にしています。受講にあたって、発達保障学校個人の発達の系概論コース、基礎理論コースを受講しておられると内容が分かりやすいと思います。</p> <p>主として発達の階層－段階理論に拠りつつ「発達認識の方法論」（実際の診断手技という意味での「方法」とはちがいます）という観点から、次のような柱を想定し、その中でいくつかを選択して学びます。</p> <p>発達診断の主な目的はいうまでもなく一人ひとりの発達の状態の理解にあります。それを実証的にすすめることは、ますます重要になっています。そのためには、日々進歩している研究上の新しい知見を反映していると同時に、具体的な手続きにおける妥当性も欠かせません。同時に、発達診断は、発達臨床としての側面を持っていますから、その手続きや方法も個別性において妥当性が問われます。いいかえると、発達の姿をそのひとを援助するために、どのように把握し提示しうるのかが問われています。</p> <p>現実の発達診断では、仮説を設定し、その検証手続きを吟味し、その結果を評価し、発達の状態について総合的な評価をおこなう、ということになります。この一連の過程について方法論という面から深めます。</p> <p>おおまかには下記のような内容を想定していますが受講者にあわせて毎年異なっていますので目安としてご理解ください。</p> | | |
| <p>授業の流れの一例（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>第1回：発達の階層－段階理論と発達診断</p> <p>ここでは、発達の階層－段階理論が着想され発展してきた経過も念頭において、</p> <p>①発達検査・知能検査の意味と限界点（1905年にビネーの開発した知的水準の診断法 1の論文、ビネー「新しい児童観」1911 など）</p> <p>②③発達の階層－段階理論の概要（主として「静かな法則性」と言われるレベルまで）。</p> <p>第2回：発達診断における仮説と検証</p> <p>①生育歴、主訴から発達診断における仮説に</p> <p>②知能検査・発達検査下位項目以外の着目点の例示</p> <p>③発達相談結果記録</p> <p>第3以降：次元可逆操作の各時期の発達診断下位項目</p> <p>1 次元可逆操作・2次元形成期</p> <p>2 次元可逆操作・3次元形成期</p> <p>3 次元可逆操作</p> <p>1 次元変換可逆操作</p> | | |
| <p>質問用のメールアドレス r-nakamura@j-ihd.com</p> <p>テキスト 中村隆一『発達の旅 人生最初の10年 旅支度編』（クリエイツかもがわ 2013-2） 参考図書 『子どもの発達と診断1～5』（大月書店）</p> | | |

| | | |
|---|-----------------------|------------------|
| コース名 研究科 | 2016年10月～ 2018年10月 | 担当者 渡部昭男・田村和宏 |
| <p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>発達保障学校のコースを1コース以上受講した方が対象です。研究論文を書き上げ、『人間発達研究所紀要』に投稿することをめざします。メールと面談（スクーリング、2年で6回程度）で研究の計画策定と推進を支援します。</p> <p>2年の流れは、以下の通りです。</p> <p>開校式 指導教員（正・副）の委嘱、2年間のスケジュールの内定</p> <p>計画発表会（6か月目）</p> <p>中間発表会（12か月目）</p> <p>予備論文発表会（18か月目）</p> <p>査読者とのやり取りと完成論文の提出（22か月目）</p> <p>査読・修了（24か月目）となります。</p> <p>指導教員はできるだけご希望に添いたいと思いますが、諸般の事情により、こちらで決定させていただくこともあります。研究科の申し込み締め切りは9月末です。</p> | | |

人間発達研究所

〒520-0052 大津市朝日が丘1-4-39 梅田ビル3階

Tel/Fax 077-524-9387

Email j-ih63su@j-ihd.com

URL <http://www.j-ihd.com/>
